

主 題：主があなたに求められること 2

聖書箇所：テサロニケ人への手紙第一 5章16－18節

先週に続いて、テサロニケ人への手紙第一5章16節からみことばを見ていきましょう。私たちは前回から、主が信仰者である私たちに求めておられることの学びを始めました。神は私たちに何を求めておられるのか？前回見たのは、

A. 教会における責任 12－15節

1. 教会のリーダーたちとの関係 12－13節

2. 教会員との関係 14－15節 六つの命令

今日は、あなたと主なる神との関係がどうあるべきか？そのことをごいっしょに見ていきます。

B. 主に対する責任 16－22節

ここには七つの命令が出て来ます。まず、その中の三つの命令を見ます。皆さんがよくご存じの箇所です。

☆三つの命令 16－18節

「16 いつも喜んでいなさい。17 絶えず祈りなさい。18 すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」

1. 喜び続けること 16節

「いつも喜んでいなさい。」パウロはここであなたが喜び続けることを命じています。どんなときでも、どんなことがあろうと、物事が思い通りに進まなくても、自分の願い通りにならなくても、自分が期待している通りにならなくても、自分が祈って来た通りにならなくても、どんなに辛いことがあっても、どんなに悲しいことがあっても、パウロは「喜び続けなさい」と言います。

この命令を私たちは何度も聞いて来ましたが、何度も学んで来ましたが、多くの皆さんは「いつも喜ぼう」と努力をなさったはずですが、そして、改めてこの命令を聞くと、皆さんの中で「私には無理です。」と言われる方がおられるのではなからうかと思えます。人間的に見ると、これは不可能なことです。どのようにしていつもどんなときにも喜び続けていくことができるのか？「何度もやってみましたが無理でした。」「そんなことはできないと私は確信しました。」と言います。しかし、このような考え方はクリスチャン的ではないことを覚えなければいけません。この命令を与えたパウロがあなたに言うことは「あなたはいつも喜ぶことができる」ということです。これはパウロが勝手に言っているわけではありません。あなたに神ご自身が約束されたことです。あなたはいつでもどんなときでも喜び続けることができるのです。それが証拠に信仰の勇者たちは喜びをもって歩んでいました。

1) その例

(1) パウロ：この命令を与えたパウロ自身がこのように言います。Ⅱコリント7：4「私のあなたがたに対する信頼は大きいのであって、私はあなたがたを大いに誇りとしています。私は慰めに満たされ、どんな苦しみの中にあっても喜びに満ちあふれています。」、パウロはこのような信仰生活を生きたのです。そして、そのような生き方があなたにもできるということです。

(2) パウロの同労者：また、パウロだけではありません。パウロの同労者たちも同じような証をします。Ⅱコリント6：10「悲しんでいるようでも、いつも喜んでおり、貧しいようでも、多くの人を富ませ、何も持たないようでも、すべてのものを持っています。」と。この主語は「私たちは」と記されています。パウロだけではないのです。パウロと彼の同労者たちがみな共通して言っていることは「悲しんでいるようでも、いつも喜んでおり、」です。私たちがパウロの同労者として覚える人物はテモテです。また、Ⅱコリント1：19に「私たち、すなわち、私とシルワノとテモテとが、…」と書かれていますが、この「シルワノ」は「シラス」のことです。シラスのラテン語名が「シルワノ」です。彼らは同労者たちを代表してパウロとともに宣教旅行に出て行くのです。彼らも同じように言います。「悲しんでいるようでも、いつも喜んで」と。

(3) マケドニアのクリスチャンたち：Ⅱコリント8章にマケドニアの教会のことが記されています。非常な貧しさの中にあつた教会です。2節に「苦しみゆえの激しい試練の中にあつても、彼らの満ちあふれる喜びは、その極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て、その惜しみなく施す富となったのです。」とあります。非常に貧しく大変な迫害を経験していたけれど、彼らのうちには喜びがあつて、その喜びが具体的な形となって外に表われていったと言うのです。彼らは喜んでささげました。

こうして見ると、パウロもパウロの同労者たちも、マケドニアの教会のクリスチャンたちも、パウロ

が命じたようにいつも喜んでいたので。つまり、いつも喜ぶことができるということです。

では、どうすればいつも喜ぶことができるのでしょうか？二つのことが言えます。

2) どうすればいいのか？

(1) 救われること

もし、パウロがここでこの世がもたらす一時的な喜び、条件付きの喜びを話しているとするなら、私たちはこのようなアドバイスを人々にするべきです。「自分のほしいものを手に入れなさい。そうすればあなたは一時的な喜びを得ることができます。」と。確かにそうです。欲しいものを手にすると一瞬は喜ぶます。でも、その喜びは長く続きません。私たちがよく分かっていることです。ですから、パウロが言う喜びはそのようなこの世的なものではありません。この世の物質から得るものでもありません。彼が言う喜びは永続するものです。どんなときもどんなことが起ころうと無くなることのない喜びです。条件のない喜びです。

ペテロは私たちにこのようなことを教えます。Ⅰペテロ 1：8, 9「:8 あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。」、ペテロはクリスチャンたちに対してこのメッセージを送るのです。その後「:9 これは、信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです。」と、なぜ、あなたがたはその喜びを得ているのかを説明しています。あなたがたは救われているから、罪の赦しを得ているから、あなたがたのうちにはことばに尽くすことのできない喜びがあると云います。

また、イエスご自身もヨハネ 15：11でこのように言われました。「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。」と。はっきりしています。主イエスの喜びがあなたがたのうちにあったと言われたのです。それがクリスチャンです。それがあなたなのです。ですから、このようにみことばは、イエス・キリストを信じたあなたには神ご自身の喜びが与えられたと教えています。

ダビデもその神の喜びについてこのように言います。詩篇 4：7「あなたは私の心に喜びを下さいました。それは穀物と新しいぶどう酒が豊かにあるときにもまさっています。」と。ダビデは神が与えてくださった喜びは、この世のいかなるものをもって也得ることのできないものだと言っています。比較などできない、どんなに心を喜ばせるものをもって、神がくださる喜びはそれらよりはるかに勝っていると。

ですから、パウロが語った喜びは神ご自身が与えてくださる神ご自身の喜びのことです。イエス・キリストを信じた皆さんは聖霊なる神をいただいているので、聖霊の実である愛があり、喜びが来るのです。ですから、イエスを信じることによって、あなたはその神の喜びをいただいたのです。問題はその後です。

(2) 主の前を正しく歩むこと

その喜びをもってあなたが生き続けるためには、あなたに喜びをくださった神の前を正しく歩み続けることが必要なのです。主なる神の前を正しく歩み続けることです。今日のテキストを見てください。5：15に「だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行うよう務めなさい。」とありました。確かに、教会にあって私たち兄弟姉妹はお互いの間で善を行ないなさい、人の悪に対して悪で報いるのではなく、常に正しいことを行ないなさいということです。これは教会だけに限ったことではありません。「すべての人に対して」とある通りそれが私たちの生き方だと言うのです。どんなときでも神の前に正しいこと、喜ばれることを選択し、そのように生きていくということです。皆さんに見ていただきたいのは、そのことをパウロは15節で語ったことです。このように生きなさい、神の前を正しく歩んでいきなさいと。その次に16節に「いつも喜んでいなさい。」とあるのです。関連していると思いませんか？というのは、あなたが神の前を正しく歩み続けるなら、神ご自身から与えられた喜びがあなたのうちで大きく成長していくからです。

あなたがいつも喜び続けていくためには、あなたが救われているなら、あなたの歩みをいつも吟味することです。「私は神の前を正しく歩んでいるかどうか？私は神のみことばに従いみこころに従って生きているかどうか？」としっかり吟味することです。「善を行ないなさい」とパウロは言いましたが、この「善」に関してソロモンがこんなことを言っています。伝道者の書 2：26「なぜなら、神は、みこころにかなう人には、知恵と知識と喜びを与え、罪人には、神のみこころにかなう者に渡すために、集め、たくわえる仕事を与えられる。これもまた、むなしく、風を追うようなものだ。」と。「神は、みこころにかなう人には、知恵と知識と喜びを与え、」と書かれています。私たちがこの喜びを持って歩み続けて行くためには、神のみこころにかなう生き方をしなさいと言うのです。何度も繰り返しますが、神が言われているこの聖書の教えに従って生きていくことです。そのときにあなたの心はいつも喜びが支配し続けるような状態に保たれるのです。

なぜ、神の前を正しく歩み続けることが必要なのか？喜びは神から与えられるものだからです。その

神が喜んでおられるときにあなたの心も喜ぶとみことばは教えるのです。いつも喜ぶことはできます。まず、あなたが救われることです。そして、あなたが救われたのであれば、神の前を正しく歩いていくことによってこの約束はあなたの内に実現するのです。

2. 祈り続けること 17節

17節「絶えず祈りなさい。」、祈り続けることを命じています。この「絶えず」とは「絶え間なく、止めることをしない」ということです。祈り続けていきなさいと言います。しかし、実際はどうでしょう？ 私たちは一日にどれだけの時間を祈りに費やしているでしょう？多くの皆さんは正直なところ余り祈っていないのではありませんか？

1) 祈らない原因

なぜ、祈らないのでしょうか？祈らない原因として考えられること、それは祈りの大切さが分かっているのです。これまで祈らなくても問題が解決できた。私にはとてもいい友達がいてどんな事でも彼と話して問題を解決していると。サタンは巧妙です。サタンは信仰に至ったあなたが祈りにおいて成長することを望んでいません。あなたが祈りにおいて成長することはサタンにとって厄介な存在になるからです。なぜなら、あなたの祈りによって神が動くからです。多くの人たちは祈らないクリスチャンを育てようとするそのサタンの策略に負けて、そのようなクリスチャンになってしまっている可能性があります。

このような統計がアメリカで取られました。「どれくらい祈るのか？」ということで、一日に1回以上祈る人は、クリスチャンの中で68.1%、イスラムの人たちは91.6%です。私は68%と聞いてすごい数だ、これだけの人が少なくとも一日に1回以上祈っているのかと思いました。別のアンケートでは1200人のクリスチャンたちに対して、1週間に1時間、1日に10分弱ですが、祈りに費やしていない人たち、そのような人はこの中にいませんか？朝起きてちょっと祈って、夜寝る時に少し祈って、食事の時にちょこちょこ祈る、トータルしても一日10分になりません。そういう人は1週間に1時間にも満たないのです。アンケートはその理由を問うているのですが、「生活が忙しいから祈る時間がありません」という答えが返って来たと言います。間違いなく、私たちの信仰生活の中で一番ないがしろにされているのが「祈り」でしょう。なぜなら、祈らなくても天から火が降って自分たちが滅びる訳でないし、祈らないからひっくりかえって大けがをしたということもないし、別に祈らなくても物事は進んでいくと…。私たちが考えなければいけないことは、どうしてイエス・キリストの弟子たちはいつも祈っていたのかということです。

ペテロにしてもヨハネにしてもヤコブにしても、彼らはなぜ祈り続けていたのでしょうか？それは彼ら自身が祈りの大切さを知っていたからです。もっと言えば、主イエス・キリストはどうして祈り続けたのですか？彼は完全に神であり、完全に人間でした。そんなお方がなぜ祈り続けたのか？夜を徹して祈っていました。なぜ、イエスはそこまで祈る必要があったのか？もちろん、イエスは私たちに模範を示してくださった。しかし、主イエス・キリストご自身、祈りの大切さをご存じだったからです。皆さん、私たちの人生において、自分ではどうにもならない、どうすることもできないという困難が訪れることがあります。病気になるかもしれない、大きなケガをするかもしれない、いろんなことが起こります。祈らなければならない状況に追いやられることがあります。そして、その時私たちは今までと違ってものすごく熱心に祈ります。そのような経験があるでしょう？

ちょっと離れてその出来事を見た時に、私たちの生活に訪れるいろんな困難は、私たちに祈りが無いがしろにされていることを悟らせ、その祈りの大切さを私たちに教えるために主ご自身が与えてくださったものだと言うことができませんか？残念ながら、私たちは自分の力や知恵を過信しています。しかし、神から私たちにどうしようもできないことを突きつけられる時に、私たちは認めたくないのですが、自分の弱さに気付かされるのです。そして、私たちは今までとは違う祈りの生活をするのです。本来なら、私たちはそういうことを経験しなくても自分自身がどれ程弱い者であるかということにいつも気付いているはずです。気付いておくべきです。私たちは弱いのです。

ですから、この「絶えず祈る」という命令を見た時に、このことを実践している人たちはこのような人たちだと言うことができませんか？それは、神に頼って生きていること、神に頼って生きている人のことと。私たちは自分でどうすることもできないと気付いたら神に助けを求めます。絶えず祈っている人は、自分の弱さに気付いて、自分には助けが必要だということに気付いて、いつも神に助けを求め続けているからです。

つまり、私たちクリスチャンの間には、皆さんの心の中には「私は主に喜ばれたい」という思いがあります。「私は主に喜ばれる歩みをしていきたい。そういう信仰者になって、そういう信仰者として成長したい。」と。しかし同時に、自分がいかに弱く罪深いかということを知っている信仰者は、自分に頼るのではなくて、自分を助けてくださる所に助けを求めようとするのです。神のところに！自分の弱

さを知っている信仰者は、神に喜ばれる生き方をするためには、神の助けがなくてはならないことを知っているのです。だから、そこに助けを求めるのです。

2) 祈りの必要性

(1) 正しい行ないを為し続けるために = いつも善を行なうため

ですから、絶えず祈っているクリスチャンというのは、その日を過ごすために、その日を主の前に喜ばれ正しく生きていくために、私には助けが必要だということを知って、そして、神に助けを求め続けている、その人の生き様です。ですから、私たちには祈りが必要なのです。

・「いつも善を行なう」ためには、主の助けが絶対に必要である

私たちがいつも善を行ない続けていくために、主の前に正しい歩みを為していくためには祈りが必要なのです。ピリピ2：13をご覧ください。「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、」、神はあなたの心に働いて、私はこのように生きたいという願いをあなたに与えてくれるということです。ですから、それが今もみことばを聞いている皆さんの心に起こっているのです。神はあなたの心の中にみことばを用いて働いていけます。あなたの間違っているところを示してくれます。そして、神は「このように生きなさい」とあなたに示してくださる。そして、あなたは心からその神のみこころに対して応答するのです。「主よ。私はそのように生きていきたい!」と。それが、パウロがこの13節で言っていることです。神はご自分のみこころのままにあなたがたの内に働いて、あなたがたのうちにこのように生きていきたい、このように歩んでいきたいという願いを与えてくれると言うのです。

それだけで終わりでしょうか？その続きを見てください。「事を行わせてくださるのです。」と続きます。神はあなたのうちに働いてそのような願いを与えてくれるだけでなく、それを実践させてくださるのです。だから、その方に助けを求めようとするのです。正しく歩んで行こうとするならば、正しく歩ませてくださる神に助けを求めなければいけないのです。

・「誘惑に勝利する」ためには、主の助けが絶対に必要である

また、皆さんが様々な誘惑に勝利するためには、主の前に祈り続けることです。主イエス・キリストはマルコ14：38で「誘惑に陥らないように、目をさまして、祈り続けなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」と言っています。誘惑に陥らないためには目を覚まして祈り続けなさいと言います。神の助けが必要だからです。

・「奉仕を忠実に為す」ためには、主の助けが絶対に必要である

また、私たちが奉仕をするために主の助けが必要です。パウロはエペソ書6章の中でエペソの教会の人たちに、自分自身に関して祈禱課題を提供しています。エペソ6：19-20「また、私が口を開くとき、語るべきことばが与えられ、福音の奥義を大胆に知らせることができるよう私のためにも祈ってください。：20 私は鎖につながれて、福音のために大使の役を果たしています。鎖につながれていても、語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください。」と。パウロは鎖につながれて自由がないけれども、私は主から頂いたこの務めを忠実に果たしたい、そのために、主の助けが必要だから祈って欲しいと兄弟姉妹に言うのです。

ですから、こうして見た時に、自分自身が正しく歩んでいくためにも、いろいろな誘惑に打ち勝つためにも、そして、私たちが主から与えられた奉仕を忠実に行なっていくためにも、間違いなく、神の助けが必要だと分かります。だから、神の助けを求めて祈るのです。

正しい行ないをするために祈りが必要だということを見ましたが、それだけではありません。

(2) 正しい心を持ち続けるために = いつも心が平安であるため

正しい心を持ち続けるためにも祈りが必要です。ピリピ4：6を見てください。4：6-7「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」、パウロはここでクリスチャンに対して「選択がある」ことを明らかにしています。思い煩うこともできるし平安を持って生きることもできる、そのどちらかだと言うのです。ですから、この6節でパウロはこう言うのです。「日々いろんなことが生活に起こって来るし、それらによって心を騒がせるけれど、その思い煩いをすべて神のところに持っていきなさい。」と。7節「そうすれば、」は結果です。あなたの思い煩いをすべて神のところに持っていきなら「人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」と、あなたの心が平安によって守られるという約束です。信仰の勇者たちはそのようにして生きたのです。辛いことがなかったのではありません。困難がなかったのでもないのです。彼らはそれに負けない秘訣を心得ていたのです。それによって左右されない秘訣を心得ていたのです。それらを神のところに持っていったのです。

残念ながら、ある人たちは自分で一生懸命思い煩いを背負っています。そのことによって何が起こるか想像がつくでしょう？あなたが自分自身で思い煩いを背負っているなら、あなた自身の中に神の平安がないということです。思い煩いを一生懸命背負うならば喜びがないのですから、表情も暗くなってい

くでしょう。その人の態度もことばもどんどん落ち込んでいくかもしれない。そういう生き方をするために神はあなたに救いをくださったのではないということです。私たちは正しい選択をしないといけません。私たちはこの地上にあって神のすばらしさを証するために生きているにもかかわらず、そうでないことをしているのであれば、私たちはその過ちを改めなければいけません。みことばが私たちに教えていることは、あなたは思い煩うこともできるけれど、思い煩いをいっさい神のところに持っていくことができる。「神さま、こういうことが私の心を騒がしています。実は、この出来事を私は耳にして心が騒いでいます。愛する者が病気で、愛する者がこのような状態で…。神さま、私はこれに対してどうすることもできません。すべてのことが可能であるあなたのところに持っていきます。主よ、どうぞあなたの最善を為してください。どうぞ、私の心がこれによって騒ぐことがないように、どうぞ、約束されたように私の心をあなたの平安で満たしてください。」と、こうして信仰者は生きて来たのです。私たち信仰者は、思い煩いを全部神のところに持っていくことができるのです。そして、このすばらしい神の祝福と平安をいただきながら生きることができるのです。問題はそのような生き方をしているかどうかです。せっかくそんな生き方ができるのに…。

アンドリュー・マーレーという南アフリカ出身の著名な牧師でたくさんの本が出版されていますが、彼はこのように言っています。「祈りを聞かれる神への信仰は祈りを愛するクリスチャンを作る。」と。私たちが神を知り、神を心からより深く信頼していくなら、私たちはこの方にいつも頼って生きることができるというすばらしい祝福を日々実践しながら生きていくのです。

ですから、祈りというのは、しかも、絶えず祈っている人というのは、私たちの力の源であり知恵の源であり、明日のことをご存じである唯一のお方にすべてを委ねて生きていく生き方です。「主よ、どうぞ教えてください。どのようにこの人の前でふるまったらいいのか教えてください。この人の前で何を語ればいいのか？ どういう態度があなたに喜ばれるのか？ 主よ、知恵をください。」と。すべての瞬間において神に喜ばれたいと願っている人は、それを可能にしてくださる神のところにいつも出て行こうとします。自分でするなら失敗します。これまでのように。だから、神のところに助けを求めていくのです。神の助けによって神の知恵によって、神の力によって、神が喜ばれることをしていこうとする。そういう人はいつも主の前に出て主に助けを求め続けている、絶えず祈り続けているのです。

3. 感謝し続けること 18節

18節「すべての事について、感謝しなさい。」、

1) 主がお喜びになること

ご存じのように、感謝をささげることは神がお喜びになることです。「【主】に感謝するのは、良いことです。いと高き方よ。あなたの御名にほめ歌を歌うことは。」と詩篇92：1に記されています。神を心から誉め称えること、感謝をささげることは神がお喜びになることです。「神さま、感謝します」と。ということは、感謝しないことは、神がお喜びにならないこと、悪いことです。ローマ書1章では人間の大きな罪についてパウロは教えています。ローマ書1：21「それゆえ、彼らは神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなりました。」。これが罪人の特徴です。神の前に逆らい続けている人々の特徴は、創造主なる真の神に感謝をささげようとしないのです。だから、もし我々クリスチャンが、私たちが造り私たちが救い、生かしている神に感謝をささげていないとするなら、私たちはもう一度自分の歩みを吟味しなければいけません。神に感謝をささげることは主がお喜びになることです。

2) 感謝ができない原因

私たちは祈禱会で「今日は感謝だけしましょう」と言っても、感謝だけすることはなかなか難しいことを経験しました。なぜ、私たちは感謝できないのだろう？、その原因を考えると、一般的には、自分の思い通りにならないとき、自分の願い事が叶わないとき、私たちは感謝できません。「どうしてこんな状態にあって感謝できるのでしょうか…？」と、もし、そのことに私たちが自分の感謝をおいているならば、感謝できるときと出来ないときがあります。でも、神が望んでおられるのはそうではありません。

一人の人物を紹介します。皆さんもよくご存じのダニエルです。ダリヨス王がこのような命令を出しました。ダニエル章6：1－9に記されています。「今から三十日間、王よ、あなた以外に、いかなる神にも人にも、祈願をする者はだれでも、獅子の穴に投げ込まれる」（6：7）という命令です。ダニエルはどうしたか？ 6：10「ダニエルは、その文書の署名がされたことを知って自分の家に帰った。——彼の屋上の部屋の窓はエルサレムに向かってあいていた。——彼は、いつものように、日に三度、ひざまずき、彼の神の前に祈り、感謝していた。」、ダニエルは今その命令が出たことを知って自分の家に帰り祈りました。そして、ダニエルは感謝するのです。私たちがどんな時にも感謝し続けること、それがこの命令ではないですか？「すべての事について、感謝しなさい。」、確かに、ダニエルはすべての事に感謝できたのです。

3) 感謝の心を持ち続けるために = すべての事について感謝するにはどうしたらよいか？

今から残された時間、「どうすれば私たちはすべてのことに感謝できるか」について見ていきます。

(1) 神を忘れないこと

私たちはどのような神を信じているのか？そのことを忘れないことです。信仰者の皆さん、思い出してください。あなたの神はすべての主権者です。この世界のすべてをこの方は支配しておられます。この方が命じたらその通りになるのです。この方のご計画によってすべての事が為されているのです。私たちは「どうして？」と思うことがあっても心配しなくてもいいのです。この方はすべての主権者なる方なのです。この方だけが神なのです。そして、その主権者なる神があなたのことを愛してくれているのです。この世界のすべてのものをこの方は、神が与えてくださった聖書の約束を必ず成就なさるのです。これがあなたの神なのです。皆さん、思いませんか！？こんな神によって私が愛されている、こんな神によって私は守られている、こんな神が私を導いてくださっている、こんな神が私を約束の天に導いてくださる、この神とともに私は永遠を過ごすことができる…と。そのことを考えると私たちは「何と感謝なことだろう！！私はこんな祝福を頂いた。こんな方が私の神だ。こんな方が私を支えてくれている。感謝だな！」と。

(2) 神の計画を忘れないこと

確かに、いろんなことが周りに起こって来ます。でも、皆さんもよくご存じのように、ローマ書8：28に「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」とあります。つまり、私たち信仰者は、私の生活に起こるすべての事について、神が良しとされたのだ、私が望んでいないことかもしれないけれど、神は私に必要だとしてそれを与えてくださった、それは私が信仰者として成長するためだと知っているということです。神はその目的に沿ってすべてのことをしてくださっている、神の為さることに間違いはないのです。このように絶対に失敗をなさらない神が、先のことまでちゃんと知っている神が、あなたの弱さも罪深さも全部知っている神が、あなたのためにとすべてのことを与えてくださっているのです。そのことを考えた時に、私たちの内側から出て来ます。「感謝だな！こんな凄い計画によって私は守られている、導かれている、感謝なことだ！！」と。

(3) 神からの報いを忘れないこと

神はちゃんと報いを与えてくださると言うのです。確かに、いろんな困難なことがあるかもしれない、体調を壊すかもしれない、寝たきりになるかもしれない、車いすの生活が続くかもしれない。でも、神が言われることは「わたしを信じて、わたしの後をついて来なさい。」です。今まで見て来たように、私たちの神がどんな神か、どんな計画を持っておられるのか、そのことを知っている私たちは、その方に信頼をおいて従って行こうとします。なぜなら、この方は神だからです。

モーセがエジプトを出て来たこと、そのことに関して、ヘブル書11章でこのように教えています。ヘブル11：26「彼は、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる大きな富と思いました。」、モーセは信仰ゆえに経験する様々な困難、非難や問題をあのエジプトの宝よりもすばらしいと見たと言うのです。人間的に見ると、おかしいのではないかと思います。モーセはエジプトの宝がどのようなものかをよく知っていました。そして、言うのです。「今、信仰ゆえに経験しているいろんな困難はあの宝よりもすばらしいものだ。」と。なぜか？その理由がその後書かれています。「彼は報いとして与えられるものから目を離さなかったのです。」と。彼が見ていたのは永遠です。天です。天に行った時に主が私のその歩みに対して祝福をくださると。だから、彼が考えたことは、主に喜ばれることを行なっていくということでした。

私たち信仰者も、いろいろなことを経験しても神は必ずその忠実な歩みに対して祝福を与えてくださることを知っています。そのことを信じています。ですから、私たちは感謝するのです。神が偉大な方だから、その偉大な方が私の神だから、私のことをちゃんと愛して導いてくださっているから感謝するのです。すべてのことを私の益のためにしてくださっているから感謝するのです。私がこの地上で主に従って行くなれば、神はその歩みに対してすばらしい報いを与えてくださる、だから、感謝するのです。

こうして信仰者たちは歩んで来ました。こうしてパウロ自身は生きていました。18節の最後に「これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」とあります。信仰者の皆さん、いつも喜ぶ生き方、祈り続ける生き方、すべてのことに感謝する生き方、そのことを神はあなたに望んでいるのです。神の命令です。そして、感謝なことに、あなたはこのような歩みを実践できるのです。もし、あなたがこのような歩みをするとどういうことが起こるか？想像できるでしょう？あなたがこんな生き方をしたらサタンはビックリします。この教会のひとり一人がこのような生き方を始めたら、サタンはたまったものではありません。そして、もっとすばらしいことがあります。あなたを通してあなたの神がご自分のすばらしさを世に証ししてくださるのです。あなたを通して、この偉大な神がどんなに偉大であるかを周りの人々に示してくださるのです。

信仰者の皆さん、そのためにあなたは救われたのです。そのために神はあなたに今日を与えてくださったのです。でも、それを世の中の人々に明らかにしていくために、この神の偉大さを示していくためには、あなたがいつも喜び、絶えず祈り、すべてのことに感謝する者であることです。そのような人として今日生きることができるし、明日も生きることができるのです。希望が湧いて来ませんか？こんな人に神は変えてくださるのです。

どうすればいいのか、私たちは見て来ました。あなたがそのような歩みを今日から始めていくなれば、神はあなたを使ってください。そのようにして今日生きていきたいではありませんか！！明日がどうなるか分かりません。明日が与えられるのならそのようにして生きていきたいではないですか！私たちのこの偉大な神のすばらしさが証される、そのためには「いつも喜び、絶えず祈り、すべての事に感謝しなさい」です。それはあなたにできます。それが神の約束です。その約束を信じて、その約束に従って生きていくことです。

《考えましょう》

1. 「いつも喜ぶ」ことは可能でしょうか？そのためには、どうすれば良いのかをあなたのことばで記してください。
2. 「絶えず祈る」ことが、あなたに大切なのはどうしてでしょう？
3. あなたの祈りの生活において、改めるようにと示されたことがありましたか？
あなたは、今日からどのような祈りの生活を始めていこうと決心されましたか？
4. 「すべてのことに感謝する」ことは可能でしょうか？そのためにはどうすれば良いのかをあなたのことばで記してください。